

草刈機安全講習会

ならやまの景観グループは景観、ビオトープそして環境に分かれ、日々の活動に励んでいます。いずれもならやまの良好な環境を維持するための地道な活動です。

そして景観はならやま全体の清掃活動やゴミ拾い等も行いますが、活動の中心はなんといっても草刈り。この広い地区全体をいくつものブロックに分け、年3～4回草刈りをしながらならやま全体の環境整備と保持に努めています。そのために毎回のメンバー募集の声かけから当日の作業場所や内容の打ち合わせはもちろんのこと、機械の始業点検・後始末にも気が抜けません。また、燃料や消耗品、工具類の補充・点検もかかせず、結構気を遣うセクションだなあ、と最近やっと気づくようになりました。そしてその仕事量の多さ。一日が終わる頃にはほんどぐったり、という言葉がぴったり当てはまります。これはもちろん他のグループでも同じことですが。……

それでもかって1～2人でほぼ全ならやまの草刈りをやっていた頃と比べれば、メンバーの人数も増え、加えてメンバーの草刈り技術や意欲は見違えるよう向上し、ならやまの景観は一段と向上したように思えます。メンバーに感謝、感謝ですね。

しかし、それに伴っていろいろな問題も散見されるようになったこともまた事実。特に作業員自身や周りの人への機械を使うことによって起こる事故を避ける安全意識が欠如したり、やまのそこそこに潜む危険を感知する意識の希薄化も目立つようになりました。また機械が増えてきたためについつい保守管理がおろそかになり、機械が調子悪くなってもそのまま使用し、機械が破損、最悪の場合は壊れてしまう、ということも起こりました。こういった状況を踏まえ、安全で安心な草刈りが全員できるように、と会では去る9月24日に奈良県林業機械化推進センターから講師の先生に来ていただき「刈払機の作業安全衛生講習」を開催しました。

参加者は25名。午前の講義では1、刈払機の作業安全 2、蜂刺されの予防 3、熱中症の予防対策 4、刈払機の点検・整備の方法 等について学びました。いずれも機械を 작동させたり、作業を行う際には、絶対におかぬばならないことばかりでしたが、プロから教えられてみて、いかに自己流でやっていたか、また不十分な理解しかしてなかったか、反省することしきりでした。

特に、これから活動期を迎える蜂への理解と対策、作業をはじめるに際しての簡単だが重要な準備や心がけについては本当に勉強になりました。あすからの活動に際してこういった内容が働く知識となって蓄積していくように改めて願いました。



午後からは、普段あまり触れたこともない箇所や普段点検をしていながら不十分なところの点検・整備からスタート。ちょっと手を加えるだけで調子をあげる機械を目の前にして改めて機械を保持するとはどういうことなのか、実感しました。また機械の一番大切な草刈り刃についても細かく教えていただきました。そのあとで一人ひとりが実際に機械を動かしながら、基本を学び直しました。

1日を通しての研修。大変だろうな、と思っていましたが、楽しい雰囲気の中、充実した中身になりました。

ならやまの環境整備にたくさんの会員の協力を得ながら頑張っていくぞ、と改めて思いました。
(八木順一)